續々ひざくり毛初編

下

へ13
1164
50

特
へ3
1164
50

蚊帳をつるに、一寸鯉のかやとつるにはこれいくらもあるものと、そんなうそんか一和ふ這入て移るかやが有て、そのうへ奇妙ど。ふくろ見てえか、ニリやハア高さ

高さ五ハア巾ふ、せんのでは、はあんとも。まだいせうがあるごん

移くでハア。おきのどくどゃ金ど、アニヨ独の振合せも化生の

縁どゃの。はおゆもきるもるアいりは移くうこどまでハア。

こんやとあてくれさろせへの。そこ寄せへの。ほの

ごろうろう移せう。もへ水有ハ志五ア寸移アニきんのう

うつ。小使所へあがってなごうまさんの[illegible]
さん。かやくごぼうごぼうく[illegible]むいご新道の伊世吉ちう蒲鉾と脊屑
てきて。細工の風呂敷がある。その[illegible]きの[illegible]とあっちらけ
程よく打とおろうのをくらくひろけて幕を張ったように
あて。ぴまくらくをのうかせて。ぼろーきと潜せて入きろ
どぶごこ「でき」こくあって蚊ふくろまこと。ユリや蚊帳のうちく
大分蚊がをいのさと。ぶくさんおけばそのうちに入蚊入て
何も考ねでおろうろ。こいつ大歩くくトやそそろあるき
そーと西わくひろそうまくとそはぶうろ「コウト」内ぶせあいたとうくく。
きーるところふ。ごをてうろうよう之久るとこ
わがうくちろろ。ひくかやがはろてある。姉さんまくろて
をいうあをくドとちいうがあとひでやろう、うちはあきさ
りひぶうろきんとそと るうち。ごぼうかと
まくあをてをいる
ヨイわ孫さん。拍ハこをさとプレふとん
ようーうくユンりっとさきく。茅出して孫かせ。かをぶ
廣いろう。天宗のをくるきぶ久ハ孫くリヤア。ふいぶの
ヤレハアがいふ。蚊ぶをいろさアの「ホンニ」をのかや。芝居ぶ蓋
の末戸と同ーるで。そとうまるろて。草履ををいと

ありで。蚊がうちくまるこまるこの蚊だろう
里のそのくらやの。そう里ぬか。八月時分ふるると。
蚊がとか稿れ脱引ないて。ヨリジがけできると。ソリヤハ
あのいえざやの。ヨリヤア弥次さんのおひつきざがしかや
おそ弥ゝ迄ねへヨ。ヨリヤ二日ともハア。弥ら迄一ます。
それふア。腰痛の病で。年中長血でおとゝしい
あんでおざるゝ。いろく療治もあるざやの。田舎おそ
いきまゝねへゝ。おゝ江戸の医者どのふかるべいと思つて。

さてこのざやの。実ざえでよるもあ。いくえあらまま水ア
おきるで。ゝ以上ハ弥ゝ迄ねへくとんざやの。ヤアくあるく腰氣
で長血とゆうゝあむきんぞう。実ざやア腸頭も腐てゐる
ぞ。それとハおゝ江。おゝ。わく二せん拾ふゝさハつまゝ
弥ゝ。ヨリヤ弥次さん。のいおちゝ。ヨリヤもあるの
蚊ふくハまるゝハ様ハねへ。おれハとヨ二ぢやア弥ゝ迄弥ゝ
ゝ。ヨリヤこいとゝろのざ。のさるヤバ。ヨリヤ
あのこのぢ。えで弥ゝけさ。ヨリヤ。
これもものてんぐのめんさがゝ。おゝく。そ弥ゝけるふ。ごせゝうあぬぐひとゝう出。ヨリヤ。
それゝうゝろひよ。弥ゝけさ。ヨリヤとゝろくとゝ。ヨリヤとねゝ。ヨリヤ。おゝく。あゝてきハふゝとあとさ面て

「ヤ」これハどうしたのだ。そそとこちらが。いつそ水だらけふあつて
いるハこく。あ孫さんヤあわく。森小僧でもくあれく。孫どころが
くたびさ。サヤ大変だ。孫沢さんく。おきかせく。大変くト
まきこうるこあて孫ら孫れ
こいのくらうらうれと出て「どうしたのだ。あんだくどころが。
仕方だのが。孫せうべんとこそ。それく。あくの鯉が。小僧は中で
孫ぐあるらヤ「ヤ」とんだるぐト孫れきて「ヤ」きて孫。ヤヤさんだ
あとひきづりこんぐ。海も孫く。あんにしても。湯さあるも
ろとが。孫くと洗ハざヤあるめく。きて八湯でも浦さ孫く。
「孫」ヤハヤ。「ヤ」ニ出血がおあるとだのあ「腰」が冷るうんだヤからら
がるねえだこがいしてコリヤハヤ。お客のどくだヤの。美てハヤ。
客茶そだヤくらさだろうでいる。夜食くひまし孫く。
ひのだくあるさふ。湯ウ当さろせるあるく序だヤふ茶漬
ろだいくるさろせくの「ト きとろうとてこうろき
あるあるふきさハオらやそそ「さて
あくく色い言やだ。孫沢さんヤまあどうだがようろう
トこだこうべこいらう。かどこぐらだ
ろうふうとこのけて。ろあ。のもやだ
ろう。おりその酒屋と。通してあろうそきてだ。おろうおやくけ

声ぐーくーくー。ころちぐ。おせ落ふ。あくさのぐあ。あ九つ。ぎ
ふ。おやぐーくさ。あぐせ。ぐーぎそ。おるのぐ。そーてヲヤ風呂痛。
あぐせ幕のやうふ。ひうそろ。おくのぐ。それとうちく。
数のそいう。稲くやうに限。それぐも。数もそい。ば。稲せる
ぐんもぐ。ぐろう。大さんぎと。ゆうやーくーくーの。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。
ぐもぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。

ものうらぶひのさ糞でも極へ。のかむるの秘方ものこい川つりや
ものさとさるぞ。自慢ぞや極へが。此あがやあや。もとといふ
軍師がある。ホニそれとも。悼あがらう恵外あがら。安猴あがら。
謀計へ出れ孔明摘も。そうちのけといふ男。それざらう
そのそうそう。三いあるとのうく。よーとさるといふと城。
此摘よ。さくらんでいうものうざらう。ナント動きハとれもくるかト
いうときて。いうろんこまりのうらあい
しや。かこうざとめて。名ハとんさく川つりや權七さん。あらい名達ぞ
ふいの。そうとこハ密かるとよーとさるといふのでその意

かるをとへ。ひそうにせいとといふとうちもあめと。三いあるを
よーとさるとものいふいの川でいの方ぞ式で。あにも
ものうら極へのぞ。虚氣が蜂れ小夜。とてもやあ出色。そうあ
さはとさるこあ法ものう極へ。あらうがいふ。三いあるとよーと
さるといふあやあ故事来暦のあるぞがあ。あへがこあ出るあ。
糞があきれらあ一つりやあつりーろへ。その不謂きるさいの
ものいうきーせやう。あへかそがこのめざうーう。さざめ出るのく
あるざろうこ夏冬濃花溢といふ義を夫幸のあるに。

閻七の女房が密夫出入のときつゝふ孫の三郎ハ
夫。まゞて密夫の將ハ法けゆゝふ。上中下の三ぐん
がある。その男と女と切てまゝふが下の子筒。あぜと
ハふ一旦ハ立流に見えても。女房と盗見と。男ハ皇
もの出さゞ。世間ぞろと云れさ上ゝ。孫の始末ハ大騒ぎ。
そとおもつて命ハ助け。耳鼻でもそぐろ。まゝさも
場をたゝて退まくるゞ。中の子筒。極上の思案とハ
ハ。世間ハ云れぬもうに。呉條とゆつて云ふが。浪風も

そゞ上ゝ別。あまゝそろゝ。ハ。三のうちそこ。
三ゝあるとゝとゝるとハ理屈。ゞまゝ。これも
世間ハ。樂ゞ鍋も。持人ハふるとハ。その子ゞ。
いひてふとゝく其沢が。たゝくまるとハ。ゞゞきい
うく〳〵そゝ〳〵ゝ夫わも。てもこゞ。今又ハてゞゝあつゝ。
がくゝやのつゝきも持人ハふるとハ。あんのこゝちゝゝゝ。
アリヤ鎖耶の剱とハふの志ゝ。唐の
刀鍛冶。そのゞくゝやのゝつゝ刀も。持人次郎ゞゝとハ

ろうちやうの方へ又いろ〳〵。コレもあんぐわんが。おい〳〵を立てゐるを
と思つても。ろうちんも荒神さまぢあり。かくやれつぎ
と思へ。縣身でこらへさせめ。屋へく後着がもつて
人へきまと。孤けまど。夫と團十郎ゥ幸四郎ゥ持と
その縣身でも。人の目がわんくときれるゥ。そこで楽屋
の訳も持人ふよる。カタクトハ書くしをとりちこまつりひく
きまとこをコウ。イヤどろこへトいろきあ〳〵ちさハこをとまる。イヨ
後着ア。イヤ書ちこトきざハ。はびくるまづこれ。はびてひとのまこどろ
きう。ものけふをれちが。いびし。ろうちんこのの

ぞふ書ぬせうく。そやく。ほのけるゴようろう。孤七さまやアイく
コレどん七さまィのの。五。す伯さんでも。孤できまぬせうろう。吾ちろう
さまが。お医者さまへいんとあつ。こてやお寿へ中と。ちらせたのこうい
かこれで医者さまへいつくくんかせく。其内ものも足れろうへ久へ
もこがの。俵艾ハ孤へく。内ふ。ありまた。どろてこまやろう
まもぐさようとてふわくちぐあると。孤ハ。おろと。孤ハ。
紙袋ふ。もぐさ。ドレく。こやろや大根の切がぐ。ト広内こあの

ともちゃ　きょう　大ごとにあります　まくてわぎよ
ものこと　くまの　かさま　こりゃさてふまろのおやぢのか　ぢれさ
ことは　權七さんわよ　そふいか　あつこりゃ　ものこれ　ぢことぢごと
とまる　ホイ　ぢん七さまのあと　かんでおやきのの　門遠
ちさいか　ちく　寸伯さまがごぢろさく　これハまま遠ありが
ふごぢろます　いさん　呑をどのふ　ぢめまーさ　ドレくトこまくと
ちちと　コリや　乳　きひハおぢろね　湯をひとろんでぢれ　ハイく
さぢ　ちく　ちくりて　ちゃ　ちんホ　ちくと　ちくく　ちくく。それちろうと。酒

人と抱（ておぢまト　ちくと　ちくちくちくを　ちくて　ぢんちのちくのちく
ちぢ　ちぢちちちくと　ぢんちやちくちと　ちくちくちと　ぢんちやちくちと
ちくちにちちわ　ちくと　寸伯　ちくのよのぢ　ちく　ちび　ちく　ちろく。ちりや　寸伯
ん。ありがとうぢろます　ぢろ　ぢろても。候ハもちやぢト
ちとぢん七ちろ　ハさちやグトよい　ちく　ちく　病人ガちやを　ぢ　さ
ちろ。大丈夫く　寸伯　權七ぢの　ちくちぢつてよいひとも
あちこぢもわちろ。かちさまを後家にちるのが　ちたまぢ
さちろさ。ぢホひちろ後家　ちちまちちろ。
ぢんぢろ侍　ちく主の生てあるちろぢ。かちさんが仕舞。

秋来ぬと
おもふ
こころ
そ
夏の
ちり
ぬ
き
ぬく風の
涼さ

愚舎
一得

かとさきく
汗を
なふて
うちわ
あつさは
かゝく
夕ア
涼しな

愚舎
十九

ひるでいやせなといふのさ[ニヤ]くどやさるばく苦労でござ
ますとサアおとびらちくいろ。ィヤまつてくま。おれがあ
さあがあいトつふろを忘でまを出ぐんセ。ここのはがをくあきあ。かりがらて。
そのまげもちておとびまくざるあり[ホンニ]あさまがあい。そころあやァおちてあいく
[モシ]おとびさん。さろきあ(けくれとこの竈の前ふ。ろばそ
ねろ。アリヤ權七さんのゆうあ[ゴ]おやァあいく[ドウ]イエあまハ。
きのふ田舎ろ貰つて唐茄子さ[ノウ]きてさんが茶代と
まちがへて是をちやがあのあくい是ろるがあつてがり

ヤ權七さんの天窓をも茶釜のあくのまつはせあうく
[ソレ]それもあれんあるか。アノ茶があれうたあハつりヤ藥
[ソウ]雑ぢやか。拾さんのゆうまふよふ似てあるこのか[イヤ]ヤく
お医者さあのあろ。あるくどざるあうざ[ドレ]ドレくホンニ拾
七どのくあるハ。ヨりが尻で。ろ一つぼこハきのどくかト
ごん七あつけうこをつまんでおとび[コリヤ]コリヤこのかさあありがくふどざりまス
ヨりまびおとびうけとりて
トごん七とのやひしれうとこふく
それくよあのさ[ー]いとあこ[ー]七ぬそめ
命より天窓の[ソウ]留れあくなりし

かくしてそ。あとハこうのとかくこうふ。さ白ハうれそ。ゑ[illegible]とハこうゆきく。
いろてちやぢんぢきあれば。さあうのこきふ。この[illegible]とあいてたもうとあれば。
あたごともせとあきそ。ぢんせうふす白
もるあうあふ。あたのこうて

わ[illegible]こちゑがわふまい。どこでいきか面へ。引紙でハぢふ
ご。[illegible]こうこ[illegible]もそふぢんごておりまたぐ。とろく。殘の種へ
のうこ病でおまぢろうハ。ぬのまこのい療治でもかふハ
きまをめ。イヤそこ。おりーろ[illegible]ぐあるの[illegible]ハ
耳寄か。おいうの町内の裏店ぢ。小奇麗か内で。

宅義を持てゐるのごうう。そこで宅ぐう分賣居家ハ
女房つき賣居ごとのふう。ナニトおりろ[illegible]ぢやア種へ久
[illegible]ハア女ぢうの宅ぐうをつけてとハめづらい。シテ其宅ぐうを
[illegible]ハ賢ぐまこうろ。ア[illegible]さとも。恰も羽衣と忘れと天
人のごと。[illegible]ハいろぢう。[illegible]色およそ。三十に
ぢやあうぢ。[illegible]うまいか。[illegible]か種ぐ[illegible]いかア。[illegible]ときふ
その宅義。いろどの賣居ごときこう。ぢう金武ゐ。
[illegible]も怪か人ぢう。いちどきふこうぢとともよのといふこと。

なの御様子あのごとと二あと出来あり。きさあ礼がある
あり。ゝ称れ和ハどふでもある。掛合て見ようどふとも
一ゝ〻ア〻どふぞ。おせをあきさてのふ浦沢さん〻そこ。出来
まるあり。どふぞ手ゝ完義と〻〻寸白〻〻善知く。あるゝ
ごろのをいゝ。できるあハ清合れ西瓜ご。晩ふおいゝゞ亜
返事きふござれト寸白ハとあ〻〻〻

あかぐろ、こととハ。つりや、宛屋か、稼こさるゝ。みちの
完義でもあると。出火の鼻ハ。おきふくとるゝぐろよ
どぐろ、イヤそんな時の役ハ、こちゝをとゝ。大くさその完ぐろ
くろうさん。近ぢかとでゝぐろやせう、ナニあかぐろぐろあけぐろ
どゝ、その完義とハ。今ゝ変りつゝくしの女ぐろのゝ
でどぐろまゝと、イヤきさま。あかぐろと女房ふゝのゝ。
ゝゝ、夫ぐハ、水風呂桶でゝ。半居洗ふのぐか。コリヤ、ゝよ
そのかゝ。如ぐろのゝぐろ。完賃ハ、るまゝが。きさま

外ハ不埒をゝて。其完さそでもくゝねぐろふをるぐろの
ゝゝトおこるゝひつ、大やゝ、ぐそめ、まぐろくにきまりも出極るゝをゝ。それや
まゝくちやべる人ぐ、ナニ寸伯さあぐ。ぐまこそどきで。呑
ゝでぐるゝぐろ。できるにゝちぐ極ドリヤ、ちやく。
取宛てまのゝうト、ゝはゝくのゝくゝゆ、ぐとふきさハそこゝ
ゝゝ、ゝまとのゝうつき、サアくきさハ。イヤモこゝとゝらゝこ極そく
ゝ何のごとゝられ極、イヤ完義ゝあぐ出ごとゝリヤアどこ
でも。あかぐゝ人ハ水ぐ出るのぐ、其あかぐゝを見さ

所が。色が白くてむつちりと中肉で。ぐぐくと水沢
山が屁分ごろ。さてくらまと強くぢやァ強くうまごこてく
らまと強くはその水の出さ所と。そやくもいふかひわと
ひてくと一そんから相談ごできこのく一出来ごともく
ちうもさきこうせきこんで。来月ハつきごうるいちつとも
たやく。今月はうちゆといふう。寸伯さあが暦を出さく
又ごと所が。あさつてより外ハい日が強くうそれふ極や
てハきこが。引越と嫁礼がいちごきこで。急ふいをやーく

あつてきこうこまる一ツリヤアさんざらがざ。世間ハ越ハ
序とふハあるが。そんあうあくハ。ひつと真ごまざらあづう
ちい一それふまざくなのあ。嫌ふちつとハ。脇繰金も
あるふさとざと。寸伯さんの噺ざう。今ふ話が。そうく
と其脇くうう出てきこハふもちつとハ。分にあうう
はそくくトむちうふあつて。こうちふも。あはうのちさ
くふ入用あれバ。寸伯よりまこーのうねとううけて。いそぎこあつて。
あようねを
ちうりる

おもハぶもうう五脇れ　なかぐうふ

まようふるいづれも毛ものゆへあり

かくてす白のせるにて。弦はり多くのそうぞんてのひ。たやるふひろ巳の右月
とて。さんぞくけさううちの巻にきさうあるあいてよ。きさへ
もさきろう。弦はりのがらくさざうぐと。もちたそぶうち。中八はしく
うのあかぐう女やう。名ハあうり。どうにたきそうぢてある 一寸伯さん。マア
いうふくあぐうまも。氏弦ひさんハふきそふあぐたやく
長家を巳うざアあるめふ。伊をーてあるゆう一イヤく多の
あうりのいふ八。盈弦次どのふ新之兄合せても。ぞふやう
盃もせねさきふ。あれくあもいれど。君ぐ巳るい
ふ。くまてうきかされバよいとふう。ゆうきあきへあれ

ど。盈日中。孫云のさうぞうきも。君猿でもうーかうう
う。弦はうどのハくまどそうぐれと。そふのうくゆう
う。あうちふもまハさのるる。あの人も盈のうちハ
どふゆうあうんと。のうさとのふるぐうう。大うこ巳うあれ
ーうるでぐろう一ナニあの数ひそうて。ぐうー
ーまうーいコきさうう。ゆうさかるをいあ。そうふ山の
神どのがきいてある一ホンニそふぐ。こまハ巳調法さう
一ナニそのさうハ祭れあるのう。男らーくてよふぐうま

さよ　すはときふ　ゐ　内儀　小豆粥　とうふ　樊　てもよろ
ろう。きこと　蒸　蒸　ふ　いつてある　人　今　てまつり
や　社　う　内　そだや　ち　ち　ち　の　を　と　く　る　と　き　こ　ハ　さ　ご　ま　て　ま　る　と
く　ま　せ　る　に　だ　や　ち　ま　ヨ　も　ひ　と　り　ち　ろ　ま　ら　の　ま　る　と　ま　ち　け　て
そ　や　こ　ち　い　ふ　ち　ア　ア　く　も　ち　ア　く　ま　ま　ま　ま　ま　人　ま　ま　ま　ま　人　ま　ま　ま　ま
ヨ　ウ　ム　ト　ま　ま　ま　ま　ま

おまさらおこのきやとやまと「さと」の所も。子供ゞちぜいごき
星やとうゝ。おやゑあうごぎうやせう。夫ふ親父がとまくぐ
生酔よあつて戻つてハとまゝせやと。何もさつて。るい
湯ごへごぎうや世ゑゞ。呑とこれが遠うて。さとをぬきいてや
とそうう。おうさんハお馴染でにぞんでとさう思へ「リキ」
外ふ。ゑゑ湯でもあいといひまるがきぶちつて。さとを
ゆきかさうやア。それで沢山ぶ「さゆうでぶうやと。そんか
ことで。おあがやくは苦労うけるハ。毎日のやうでこまりやと。

それようわつた。ゑゑいとこへおぶうやせゑのゝおりえ。ハイ
さあうあゝト「はぶぶ」「サ」これゝゝまぶと。往ゑのまい仲ことと。蛤の
吸あくかゝう。むきこを買てあつてゝう。あれゝ豆腐でも入る
て。それと者ふ。仲人やくハ仕す伺。あき坊主でハあるとと九
俵ものつりうぶ「イエ」おまいのあハ。ゑ来てぶうまゝ「そん
あゝ弱ゝ盗ハぬんぶうぶうう。鍋ゞと変へ出て。吸出ふ
ちてハぶうぶ「ナニ」あゝでまいまゝゝふあるあう。女性のい
とのゝて出さゝゝ「サ」お内儀。こへきかさいト「内きさハ」とゝゝふのまい

いざまを　白　さあく宝御の通。おそうごの。ひとつのんで弦沢
ぞのくさーのさいト　ちょうくをまてふ。おそうのそそ。おさくと　ひまつ。弦
ちょうくをそうおげて。弦　ひまつのとおそまを　これハふ　ぎふ縁で。これそうおせまふ
まそと　白　こそ　ぱやうふ　ぶ　ぶ　素気　ぬ　ぱ　役　ぬ　ぬ
ござうまをせう　白　イヨ　ぬ　ぬ　ぬ

よんてきそやきうませトきさこハもろかのぞをとび東おろう
さんもりがかぶるく。ツリヤそふ〜〜てハゐ〜を孫。ニセレく
おまへ〜ごそとをかごづけて。床をとろくやきうませ
陪ゆ〜〜どふ〜〜さのでごぎうやまを「おまへ〜〜はそでんを」
ハあるやへ。おろうさんハ。先の庫裏ヲ主さんのこ孫と京ん
でこうろ今月が緑月。虫がかゐると咲こうろ。大へこと
それでおろうと。今月〜〜が不の親父どのとえあげ
ぢあこん（ゆうは）さ。サアおろうさん。こちらへトふうんおろうを
ぎ。きさこうぐらい寸白「こ」ハおろうあんぐ。いろさ腹が大きいく
おりんさが懐妊とく気づつろあんぐ。何ふろおろと
ぐあへ。きさこうそこへ湯でもゐるをがよい。生れるに
あびせろう「ア」こで湯灌〜〜ろう。地主ろ安ま
ろうろう「ナニ」ゆくさんおやア孫へ。産湯とゐまのぐ「コリヤこそ」
ぐ。ふあふこと。トくまのおさを「コウ」孫次さん。おへ〜ぞ。そん
あふをこぐ。新とこてゐる。「ろ」雑そろく子が生まるた。
かさ孫へぐ。やこいぢあア孫へう「ア」ぢをぬを。ふれ生れる

ばこに、ぬぎこしあり。何でも今宵ハと、楽んでいさのと。
こまごまとアまて七十五日待まアあり孫へうつ。おまこハ
おかーろくもあんとも孫へト（はなうあげでできうでおくりのようふとをうえて）サウ
きまつぐきこ湯ハこいてあるへコくおまへ。そこふ
きまのろりとしてねぎときのきろ孫へ。こへきて腰で
も抱てくんかさい孫へ。そこるるハきりやせん
ぬきろ孫へとこて毒用か。はおぞあさんの毒
のろ孫へうう。あまへこたくこへ来てくんかさいト（もたれ紙ゆうか）

こうをあるサウくのよるハあいふ。ちはおさハ。傳ごと嵌へさう
ぞきる。サウくしてねぞと。鰹節でも
寸伯さあう。邪ドかあおろくくしてねぞと。鰹節でも
かいそくんかせへか。大きかづうてへさちく。まれきろ
孫へ寸白ハイく。きさこう。かろかぶ。名ハぞふある。ヤ
ホ一ソリヤア史ぞとこ。ろあろう。名ハぞこにゆるう。ろち
ホも毒孫へ。毒でもきかせへか。寸白ナニその擂子木
をかいく。あんホきるあぞ。それようアノ腰を抱てゐる。
孫へうの顔をえさうホニおききう孫へ。

虚氣が質ふとうまさ
「ヨギヤアノ」「サア完義うふが生さハドレもでもくんで、
ものそのろうトあり
ほうりあとようぞ
「コレおようろこびあきさ。玉のやうか男れ子。
よいお名とつけてあげかさの
でも。揚をふつけるぞいく。おいらの子でいか。もりろく
も稲へ。寸伯さん。ぜまるく稲ぞれくうアあも
とんかとあり。気初にそれとあるくしのぶくのう。

さんきうでいわアがくる稼かおさふくあ蔵。稲文
「今年実稲が稼とそそ有がうさりまう稲。りのやぞ
といつくも。女ど出てやる有。有。ちちうぞてやく
ようぶふ。ちそぶ稲へう。きさ蔵の長う合せの長う
ぶと稲生「ふせ「そよ稼やるより外ちそぶ稲
「ちとふくと。ふくくとそとのふうわとうそ。ま色きさハハちくく。ふきさ
そふ多るとくくくわる。ほうハさらハさそども。さんうくあくくあのいう
ぶんド。ふせうぐ
ふくそちまひ
家移ノ星と産と「慶ふそぜ文文

生れさ坊やなんと云月

代余草稿 伏禀

あるべき合ふやのまくり延引こおそ事敷先の編

一冊差出下いり續きこ編彫刻さ一急き近者

出板賣出ス所幸おかとべ出来可仕ト申上

續々膝栗毛初編終

東京帝国大学
古文書科